

会員のひろば

題字：森 和恵



◇昨年12月に、元高校教員で現在新潟十日市の棚田で米作りをされている船橋先生とのコラボ授業（現代社会）を行いました。きっかけは、船橋先生からお米を購入した際に、米作りについてお話をうかがう中で、せっかくだから生徒にも伝えたいと思ったことから。「戦後の日本経済」の単元で「日本農業の変貌」という項目があるのですが、大きな変貌を遂げたのはまさに米作りです。といっても、生徒の多くは米作りに関心があるはずありません。そこで、船橋先生から「作った米を生徒に食べてもらって」と新米をいただき、10月に炊きたての「ブナのしずく（魚沼産コシヒカリ）」の新米おむすびを味わうという

なんとも贅沢な授業導入になりました。12月の授業では、まず脱穀、もみすり、精米を手作業で体験。（なかなかうまくいかなかったのですが）その後、F先生から米作りに取り組まれた経緯から、現在の日本の農業の現状まで写真画像を交えて講義。自分が食べたおむすび（米）のトレーサビリティ（食品の栽培や飼育から加工・製造・流通などの過程を明確にすること）を生産者から直接聞く授業は、少なからず生徒の興味関心を高めたようです。現代社会の授業で悩ましいのは、生徒がなかなか自分の問題として捉えてくれないことです。その点で、今回は自分の舌で味わうところから始まりましたから、何とか自分の問題となったようです。朝から家庭科の先生に応援してもらい、3kgの米から60個のおむすび作りは大変でしたが、それも私自身のおよび経験になりました。さらにおまけがあつて、授業を見に来てくれた別の家庭科の先生が大学時代に米を研究テーマにしていたそう、現社と家庭科のコラボ授業ができたらいいいねという話になりました。今回の取り組みは、本校が受験指導や進度に気を遣わなくてもよい強み（？）があるのでできたのかもしれません。ですから、今後この強みを生かし、コラボ相手をどんどん増やして、生徒も教師も授業を楽しみたいと思います。

前橋市 田口 有理

◇元気です。老化現象は著しいです。かけつけ警護で一人でも死んだら（71年ぶりの戦死）大騒ぎしようと思います。

渋川市 中村 幸生

◇昨年の学びをご報告します。足がいうことをきかなくならない内にと出かけてきました。①白河市の「アウシュビッツ博物館」は以前高崎で展示会が開かれて以来の見学でした。特に印象深かったのは、目の前で親を銃殺された子ども達の絵でした。どのような思いで描いたのでしょうか。恐ろしくなりました。

②上田市の「無言館」は3度目の訪問です。生ある限り絵を描きたかった若者が戦争に駆り出される無念さ。そして驚いたことは敗戦前1年半の間にこの戦いの犠牲者の85%が亡くなっているとの統計でした。既に周知のことですが、天皇の決断の遅れが画学生、特攻、空襲、原爆、沖縄の人々の生命を脅かしたのです。こちらも恐ろしいこと。

藤岡市 水沼 武彦・安美

◇迎春 いつも楽しく読ませてもらっています。すなっぶの利根実の記事を見ました。私が現場に行っているような気分で読ませてもらいました。生徒の生き生きした姿が目には浮かびます。本年もよろしく願います。

高崎市 篠原 八一